

福ふくの神かみに大たい変へん感かん謝しゃし、おうぎおどりをしていたあたりに、小ちいさな社やしろをたて大だい事じにまつると、倉くら蔵ぞうの家いえは、またむかしのように、豊ゆたかになりました。そして、それいらい、だれいうとなく、そこを「福ふく原わら」というようになつたということです。

戸と倉くらのはな取とり地じ蔵ぞうさま

むかしむかし、正しょう直じきで大たい変へんに気きさくな、源げん工え門もんという百ひやく姓しょうが戸と倉くら村むらに住すんでいました。ある日ひ、なんとか今きょう日じゅう中ちゅうに代しろかきをおおやそうと、あせりながら馬うまを追おい、一ひとり人で仕事しごとをしていました。